

授業科目名	人体構造学Ⅱ (Structure of human body Part II)		
対象学年	医学科 2 年生	単位	8 単位
科目責任者	あいざわ ひでのり 相澤 秀紀	所属	神経生物学 (内線 5115)
		メール	haizawa@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	講義および実習中心，印刷物配布，スライド投影，光学顕微鏡観察，人体解剖学実習，学生による発表		
概要	<p>「医学一般」のうち，「個体の構成と機能」 「人体各器官の正常構造と機能，病態，診断，治療」のうち，「人体各器官の正常構造と機能」 「全身に及ぶ生理的变化，病態，診断，治療」のうち，「成長と発達」「加齢と老化」に関連する項目を扱う。</p> <p>人体の構造を分子レベルから肉眼レベルまで関連づけて把握する。 人体の構造によりになわれている機能を理解する。 人体の構造が形成される個体発生過程を知り，その機構について考察する。 人体の構造が形成されてきた歴史（＝系統発生）を探る。 人体の構造について臨床医学の面からも捉える 以上のことを通じ，人間の尊厳と生命への畏敬の念を養う</p>		
到達目標	<p>「人体構造学」は，次のユニットからなる。 それぞれの目標・内容については，別に掲載する各ユニットの項を参照。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統解剖学 2. 人体解剖学実習 3. 組織学 4. 人体発生学 		
講義日程	<p>別に掲載する各ユニットの項を参照。</p> <p>なお，2年次生は全員，2018年6月3日（日）に行われる献体者慰霊祭に出席する。 また，2年次にこの実習を履修したものは，翌年2018年5月27日（日）行われる遺骨返還式に出席し，遺族に遺骨をお返すする。</p> <p>いずれも，葬儀と同様の服装で参列するので，それまでに相応しいものを整えておくようにすること。</p>		
評価項目	試験の成績，及び，実習への取り組み方などを総合的に評価する。 詳細は，別に掲載する各ユニットの項を参照。		
評価法	別に掲載する各ユニットの成績を総合して評価する。		
履修上の注意 アドバイス	<p>解剖学は，そこになにがあるかを見る（目だけで「見る」のではない），ほかのものと見分ける，あるかないか見定める，学問である。けっして，書物に記載されているものをそのまま「覚える」ものではない。おのおのが，自分自身の五感を使って「発見」するものである。なにを発見するのか？ それはあなた自身の問題意識にかかっている。</p> <p>多くの学生にとって，解剖学は人生の最初に出会う壁となろう。膨大な語彙と立体構造，時間軸（発生）の組み合わせに圧倒されないように。</p> <p>枝葉にとらわれずに，まずは幹を見定めよう。講義や実習で色々と細かなことを取り上げるかもしれないが，それは幹が幻でないことを証明しようとする努力である。もし幹が見えにくいと感じたら，できるだけ簡単な解剖学の書物を通読してみよう。例えば，入門人体解剖学（第5版），藤田 恒夫，南江堂（2012）¥ 5,400，や入門組織学，牛木辰男，南江堂（2013）¥5,400のようなもの。カラー人体解剖学—構造と機能：ミクロからマクロまで，Frederic H. Martini, Michael P. Mckinley, Michael J. Timmons（原著），井上 貴央（監訳），西村書店（2003）¥8,424</p>		
推奨参考書	各ユニットのシラバスを参照のこと		